

RPJ News

2016年 4月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒115-0045 東京都北区赤羽2-45-8 ファーストビル赤羽205

TEL/FAX 03-5939-9603

毎月1回発行

E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

熊本県地域の地震により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

1日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

内容

* ACT KUINA チームの紹介

(社福)町にくらす会 志井田 美幸

* イタリア・アレッツォ県ヴァルディキアーナ地域研修に関する報告(2)

事務局

* 事務局からのお知らせ

- (1) リフレッシュセミナー2016 「リフレッシュ交流会 in 御荘」参加者募集のお知らせ
- (2) カナダ・トロント ACT セミナーツアー2016 参加者募集のお知らせ
- (3) 本紙5月号以降 Web 発行・HP 掲載への移行に関するお願い

* ACT KUINA チームの紹介

(社福)町にくらす会 志井田 美幸



僕がチーム KUINA の紹介をします！
ちなみに、僕の名前も『くいな』です♪

チーム KUINA

まずは・・・『チーム紹介』です。

茨城県のひたちなか市で活動しています。ひたちなか市は、99.07 km²の面積に人口約 158,000 人が住んでおり、水戸市・つくば市・日立市に続く茨城県下 4 番目の規模の都市です。上野から特急で約 70 分という場所にあります。市内には、精神科クリニックが 3 機関のみで、精神科病院はありません。近隣の市町村には精神科病院 2 機関、精神科・心療内科 3 機関、精神科・心療内科診療所 6 機関があります。夏に、Rock in Japan という若者が熱狂する音楽イベントが「ひたちなか海浜公園」で開催されますが、その国営公園の近くの長砂という地域で KUINA は活動しています。

ひたちなかは、5 年前の東北大震災に被災しただけでなく、17 年前に発生した東海村の原発事故では隣村でした。施設からは 4 km しか離れておらず、大きな問題として当時は大変な混乱を経験した場所でもあります。

町にくらす会は、多機能型の障がい者支援施設、地域活動支援センター、障がい者就業・生活支援センター、精神科に特化した訪問看護ステーションを主な事業とする社会福祉法人で、ACT の専従スタッフの他に、それぞれの事業から専任スタッフと兼任スタッフが集まって ACT 活動をしています。スタッフは男性 8 名、女性 15 名の計 23 名から成り立っており、精神科医・看護師・PSW・CP・臨床心理士・介護福祉士・相談支援相談員・OT・ピアスタッフ等、多職種が在籍しています。各メンバーのニーズに合わせた支援内容、支援の量、支援の頻度でタイムリーに日常生活に密着することにより、的を射た生活の支援を提供させていただいています。

KUINA の ACT は、平成 2001 年からスタートしました。地域での公的な役割を大切に考え、社会福祉法人として活動を続けています。

ここからは、僕、『ちやい』が紹介します☆

『チームの特徴』は・・・社会福祉法人なので非常勤のチーム Dr.はいらっしゃいますが、常勤のチーム Dr.はいらっしゃいません。メンバーの主治医が、それぞれ協力をくださるので、チームの活動が来ています。また、障がい者就業・生活支援センターのスタッフが就労のスペシャリストとして、チームでの就労支援を担っています。



左が母親の私『ハッピー』で、右が息子の『ラッキー』です。親子共々 KUINA で過ごしています。

さて、『チームの今後について』ですが・・・今まで通り「点ではなく、線の支援」をおこなっていきたくと思います。昨年の震災時の体験などを活かし、今後も臨機応変に対応が出来る、融通の利くセンターでありたいと考えています。

僕、『シャドー』です。

KUINA がどんなチームか、お分かりになっていただけましたか？

もし、少しでも興味を持っていただけましたら、

KUINA(029-202-2221)にお電話ください。

僕たちもお待ちしています。



* イタリア・アレッツォ県ヴァルディキアーナ地域研修に関する報告(2)

事務局

ヴァルディキアーナ精神科救急サービスは Santa Margherita 病院 (住所 Fratta-Santa Caterina Arezzo) の中にあり、精神科救急病床は2床あります。患者がいなくて救急サービス部門は閉鎖しており、入院患者がいる場合(入院期間は通常5-7日)でも精神科専門医や看護師は、センターと兼務のため不在の時もあります。その場合は他科の医師や看護師が対応しているそうです。病院の受付は「Amici di Francesca」というアソシエーションが業務受託しており、このアソシエーションは多くのプロジェクト(絵画教室等)も実施してリハビリの一助になっております。

精神保健センターは3か所あります。1つ目はコルトーナ精神保健センターで、コルトーナ保健の家の中にあります。場所はカミュチア・コルトーナ駅から徒歩15分位のところです。保健の家には、医療センターとして総合受付、小児科、産婦人科、身体障害専門、自閉症専門、眼科、耳鼻科、皮膚科、整形外科、血液検査センター、ナースステーション等(内科・外科のみが無い)があり、全て外来専門で入院施設は持っておりません。予防接種や検診も行う予防局もあります。



Santa Margherita 病院



上記病院にある精神科救急病床

1階に精神保健センター(平日12時間開所、他はオンコール)があり、ナースステーションには精神保健センター専用の薬剤室があります。自分で投薬管理ができない人(全体の約10%)は薬剤室に飲みに来るそうです。社会サービスの窓口も同じ建物にあります。またコルトーナ保健の家の特長的な活動として、認知症患者に対して特別なプロジェクト活動をしている。イタリアでは認知症は老人専門科で精神科とは違うが、精神科医・神経内科医・心理士・老人専門医・ソーシャルワーカーがグループで一人の対象者を支援するプロジェクトで、一緒に訪問したり支援方法の相談をしたりしているそうです。

2014年は、コルトーナの人口53,000人に対して1297名が精神疾患(統合失調症・うつ病・パニック障害・不安障害・摂食障害を含む。発達障害は小児科扱いとなる)で、人口比2.4%であった。精神保健センターには精神科医が4名、教育支援員(作業療法士)が2名いる。最上階にデイケアセンターがあり、教育専門員(リハビリテーション士)が2名と補助員が2名いて、絵画教室や音楽鑑賞会等を行っている。外に出て就労支援・金銭管理・生活支援等も行い、各種の社会的リハビリテーションを行っている。外部の社会資源も積極的に活用しているとのこと。

保健の家に隣接して市が管理する一般老人ホームと保健機構が管理する認知症老人ホームがあります。向かい側のアパートにはグループホームがあり昼間は専門職が1名常駐しています。入居者数は法律で定められており、このグループホームは3名が居住。1名は年金生活者(以前は精神病院にいた方)、2名は社会協同組合で指導員として働いていました。1970~80年代には精神病院から入院患者を外に出すため多くのグループホームを必要とし、1988年には4か所17床のベッドがあったが、閉鎖が進み現在は6床まで減ったそうです。

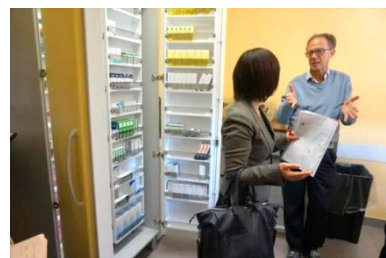
2番目の精神保健センターはカスティリオン・フィオレンティーノ保健の家の中にあります。この保健の家はカスティリオン・フィオレンティーノ駅から徒歩15分位の高台にあり、小児科や神経内科、思春期を対応する相談場所や血液センターなどコルトーナ保健の家と同じように多くの科を持つ医療センターで、ここには日帰り手術の施設もありました。また社会サービスをする事務所やアソシエーション等も入居しています。

ここの保健の家の中に10名の家庭医がいます(他の都市では町中にオフィスを構えている)。イタリアでは住民一人一人が家庭医を持っており、何か病気に罹った時は先ず家庭医を訪問し、診察または必要な紹介を受けます。精神障害の場合も家庭医が精神保健センターを紹介することになるそうです。住民は生まれたときから14歳までは小児科医が担当し、14歳以降は家庭医に引き継がれる。しかし9歳から14歳の間は本人または家族の選択で家庭医を希望しても良いとのこと。ここの家庭医は24時間365日常駐していますが、休日や夜間は代診の先生になるそうです。家庭医は保健の家で1日最大30名まで診療できます。それ以外の時間は家庭医と家庭医の看護師は共に往診活動をしているそうです。そして1名の家庭医は住民を最大1500名担当することが出来るそうです。

次号に続く



コルトーナ保健の家



精神保健センターが管理する薬品



コルトーナのデイケアセンター



コルトーナのグループホーム内部



カスティリオン・フィオレンティーノ保健の家



上記保健の家にある家庭医の受付



* 事務局からのお知らせ

(1)リフレッシュセミナー2016「リフレッシュ交流会 in 御荘」参加者募集のお知らせ

今回のリフレッシュセミナーはセミナー形式をとらず、お集まりいただいた皆様相互の情報交換や交流を通して、福祉の領域にかかわる多様な方々がフラットな関係で親交を深めていただくことを願って「リフレッシュ交流会」としました。

協会は当初から法人会員という枠組みは持たず、全ての会員が仕事の枠を超えて「個人」でご入会いただくという基本姿勢を貫いてまいりました。協会設立から15年経過したところで再度「個人」という視点のリフレッシュセミナーにできればと考えております。

何が飛び出すかわかりません。ご参加の皆様も是非大きな隠し玉を持ってご参加ください。そして楽しい交流会にしましょう。

多くの皆様のご参加お待ちしております。

※案内書・申込書を添付しましたが、ご不明の点は【問い合わせ先】に連絡をお願いします。

(2)カナダ・トロント ACT セミナーツアー2016 参加者募集のお知らせ

重症慢性精神障がい者が住み慣れた地域で継続して暮らしていけるように、多職種の専門家で構成するチームが、地域において24時間365日、時間と場所を問わず広範囲のサービスを提供するケアマネジメントの実践「ACT=Assertive Community Treatment」の研修に参加してみませんか？

11回目となる今回は新しいプログラムも企画しておりますので、以前参加された方も再度是非ご参加ください。ウエンディ-所長も我々の訪問を大変楽しみにしておられます。

多くの皆様のご参加お待ちしております。

※詳細は添付の案内書をご覧ください。

(3)本紙5月号以降 Web 発行・HP 掲載への移行に関するお願い

本号まで紙面発行に拘り継続し15年が経過しました。10年の時に一度 Web 発行への移行が話題となりましたが、パソコン・ガラケーが主流の当時において時期尚早と紙面を継続してきました。しかし昨今の IT 端末の普及を見ると目覚ましいものがあります。例えば2015年の東京地区15歳から69歳での所有率でみると、スマホは69%で5年前の9.8%から飛躍的に伸びており、タブレットは28%で5年前のほぼ0%から同じく伸びております。スマホは人口の3分の2以上、タブレットでも3分の1近くが所有していることとなります。地方都市を見ても所有率の差は10%程度で、携帯型端末が非常に普及していることが理解できます。

このような背景を踏まえて、皆様には多少のご不便はお掛けすることになると思われませんが、本紙の Web 発行・HP 掲載移行にご協力いただけますようお願い申し上げます。

※Web 発行・HP 掲載移行に際し、既にメールアドレスをご提供いただいている皆様には5月20日までにメールアドレス宛「Web 発行移行の連絡」を差上げます。期限迄に連絡が届かない方とメールアドレスを変更された方は、ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp まで連絡を下さい。宜しくお願いします。PCメールの方にはPDF版ニュースを、携帯メールの方には最新版発行の連絡を差上げますので、HPに掲載する最新号ニュースをご覧ください。

精神保健福祉交流促進協会ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>



—編集後記—

今回の RPJNews4月号で募集がありました「リフレッシュセミナー in 御荘」は、ありがたい企画です。暫く、目の前の作業に忙殺され、自分を見失っているスタッフさんに参加のお声掛けをしたいと思います。是非、ひとりではないことを実感し、リフレッシュをして帰って来て欲しいと思います。(m.shiida)

〒115-0045 北区赤羽2-45-8ファーストビス赤羽205 TEL/FAX03-5939-9603